

# 令和5年度 山梨県河川マイクロプラスチック調査業務 報告書 概要版

## 1. 調査の目的

県内の多摩川水系、相模川水系及び富士川水系の河川におけるマイクロプラスチックの状況調査を行い、調査結果を周知することで、現在世界的に課題となっているマイクロプラスチックに対する県民理解を深めることを目的としている。

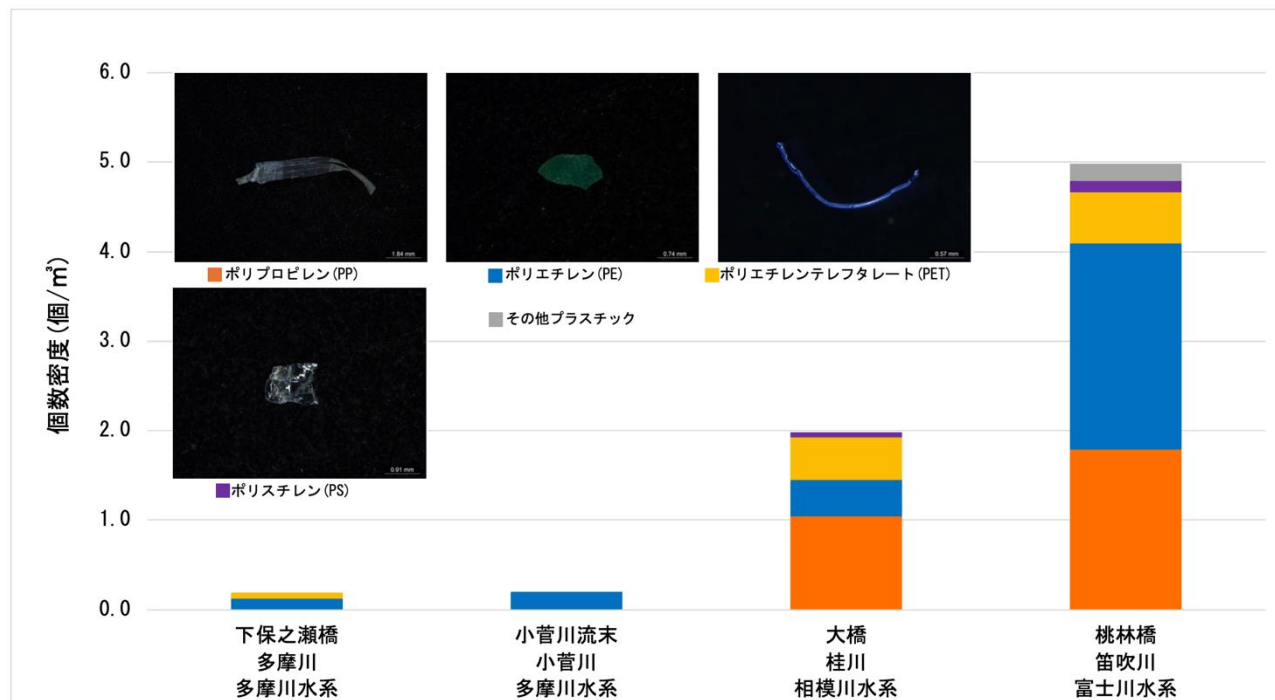
### 河川マイクロプラスチックの調査を行う必要性

世界中の海域で5mm未満の微細なプラスチック類（以下「マイクロプラスチック」という。）が確認され、海洋環境等への影響が懸念されている。我が国周辺海域においてもマイクロプラスチックが確認されており、発生源対策の検討が進められているところである。これらの検討のためには、陸域から海域へ流出するマイクロプラスチックの分布実態を把握することが必要である。

（「河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン」令和5年3月 環境省水・大気環境局水環境課 より引用）

## 2. 河川マイクロプラスチックの分布実態（多摩川水系・相模川水系・富士川水系）

マイクロプラスチックの材質別捕集個数密度 検体採取日：令和5年10月3日



### 調査結果概要

#### (1) 個数密度

##### ① 多摩川水系

多摩川の下保之瀬橋と小菅川の流末、2地点において各3個ずつマイクロプラスチックが検出されたが、いずれも個数密度は0.2個/m³と低い。

##### ② 相模川水系

桂川の大橋では、マイクロプラスチックの個数密度2.0個/m³（34個）であった。令和4年度の調査時（1.7個/m³）と比べ、微増している。

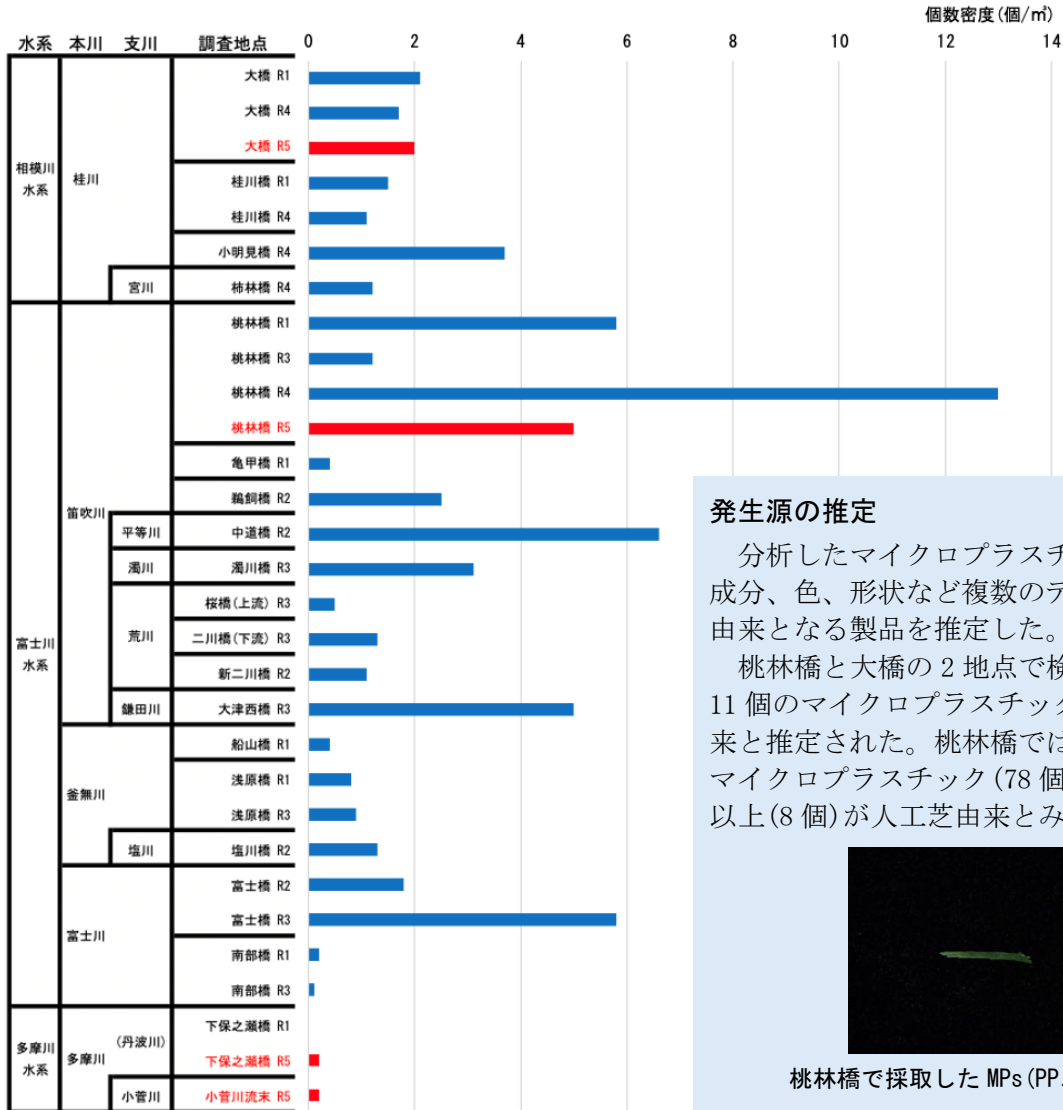
##### ③ 富士川水系

笛吹川の桃林橋では、マイクロプラスチックの個数密度が5.0個/m³（78個）と、本調査の中で最も高い値であった。同地点の上流側には、山梨市、中央市の2カ所の人口集中地区（Densely Inhabited District：DID）が位置し、同地域からの流入の可能性が考えられる。

#### (2) 材質割合

各調査地点で確認されたマイクロプラスチックの主な材質は、ポリエチレン(PE)、ポリプロピレン(PP)、ポリエチレンテレフタレート(PET)、ポリスチレン(PS)であり、PEとPPで8割を占めた。

### 3. 過年度調査結果との比較



#### 発生源の推定

分析したマイクロプラスチックのうち、成分、色、形状など複数のデータを用いて由来となる製品を推定した。

桃林橋と大橋の2地点で検出された、計11個のマイクロプラスチックが人工芝由来と推定された。桃林橋では、採取されたマイクロプラスチック(78個)のうち、10%以上(8個)が人工芝由来とみられる。



桃林橋で採取した MPs (PP、押出成型)

### 4. 河川ごみの散乱状態

調査地点周辺において、①ポイ捨てされたと推測されるごみ、②不法投棄されたと推測された農業系のごみ、③風で飛ばされたごみや河川を流下するごみ等、意図しない流出と推測されるごみが見つかった。



### 5. 山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画に基づく評価

山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画の効果が確認できるまでには継続的な取組を要する。今後も流域圏の周辺都県と連携して発生抑制対策及び環境教育・普及啓発に取り組むとともに、より発生源に近い地域や施設の周辺、湖沼等における分布実態の把握、対策のモニタリング・評価のためにも、マイクロプラスチック調査を継続して実施していくことが必要である。